

# 3

Rd.

JUN 2015

平成27年7月30日発行

# RACING PRESS

*apan*

## SUPER GT ROUND 3 BURIRAM



Super GT  
Series 2015

GT

Round 3  
BURIRAM

6/20-21

Chang INTERNATIONAL  
BURIRAM SUPER

2015 AUTOBACS SUPER



Text

島村元子

Editor

吉川絹恵

Photo

吉見幸夫

Special Thanks

服部真哉

Cover Photo

吉見幸夫

スーパーGT第3戦は昨年に引き続きタイのチャンインターナショナルで開催された。気温40℃と上昇する灼熱の太陽の下でハードなレースが展開された。

# BURIRAM SUPER GT RACE

GT300/500の両クラスで  
**GT-Rが圧勝!**

# Chang INTERNATIONAL CIRCUIT



# S Road MOLA GT-R、2年越しの美酒に酔う!

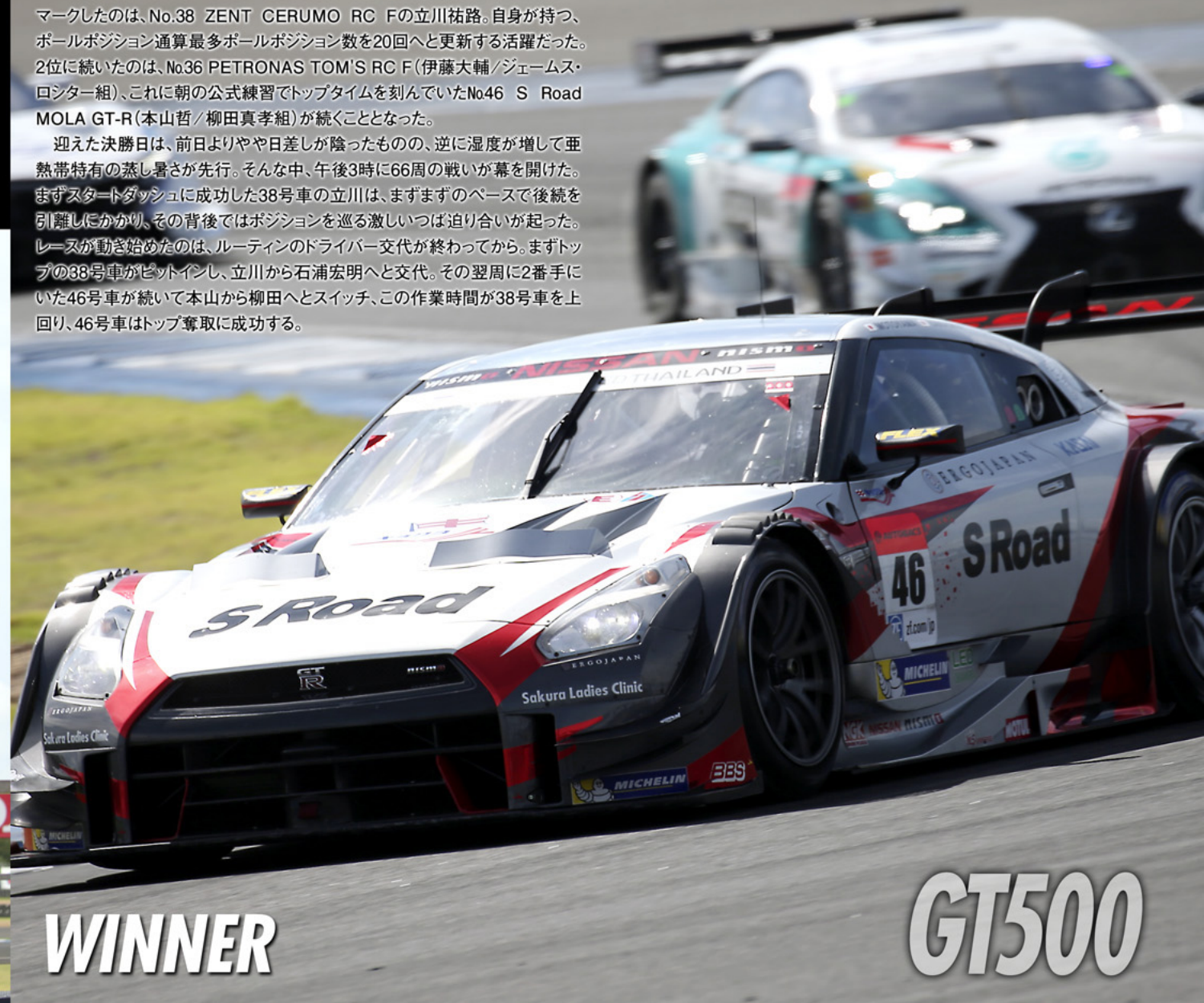
## GT500

今シーズン第3戦を迎えたSUPER GTは、6月20-21日、戦いの舞台をタイ・チャンインターナショナルサーキットに移して慌ただしい展開を見せることになった。灼熱の国で見せた一戦は、思わぬドラマが待ち受けることになったが、その中で、予選3位のNo.46 S Road MOLA GT-R(本山 哲/柳田真孝組)が完勝。昨年果たせなかった優勝を手に入れている。

今年で2回目の開催を迎えたチャンインターナショナルサーキットでの戦い。参戦台数に対応できるよう新たにピットが増設され、またチームドライバーやスタッフが休息できるエアコン付きのボックスが設置されるなど、より快適なレース環境が提供されることになった。一方、ギリギリと照りつける強い日差しの中で迎えた予選では、気温は40度、路面温度が60度直前まで上昇。究極のコンディションの中、トップタイムを

マークしたのは、No.38 ZENT CERUMO RC Fの立川祐路。自身が持つ、ポールポジション通算最多ポールポジション数を20回へと更新する活躍だった。2位に続いたのは、No.36 PETRONAS TOM'S RC F(伊藤大輔/ジェームス・ロシター組)、これに朝の公式練習でトップタイムを刻んでいたNo.46 S Road MOLA GT-R(本山哲/柳田真孝組)が続くこととなった。

迎えた決勝日は、前日よりやや日差しが陰ったものの、逆に湿度が増して亜熱帯特有の蒸し暑さが先行。そんな中、午後3時に66週の戦いが幕を開けた。まずスタートダッシュに成功した38号車の立川は、まずまずのペースで後続を引離しにかかり、その背後ではポジションを巡る激しいつば迫り合いが起った。レースが動き始めたのは、ルーティンのドライバー交代が終わってから。まずトップの38号車がピットインし、立川から石浦宏明へと交代。その翌週に2番手にいた46号車が続いて本山から柳田へとスイッチ、この作業時間が38号車を上回り、46号車はトップ奪取に成功する。



WINNER

GT500

# Chang INTERNATIONAL CIRCUIT



Chang  
INTERNATIONAL  
CIRCUIT

2015 AUTOBACS SUPER GT ROUND 3

## BURIRAM SUPER GT RACE



LAPS 66

HONDA

HONDA

HONDA



2nd



3rd

Yoshimi

再度トップへの振り返りを目指した38号車だったが、その後、ブレーキトラブルが発生。緊急ピットインのままコース復帰は叶わず、勝利が手からこぼれ落ちた。また変わって2位に浮上した36号車はタイヤ無交換作戦が裏目に出て、後退。終盤は46号車がトップ安泰でレースを牽引。昨年はトップを走りながらもトラブルで勝利を逃した屈辱を晴らすこととなった。なお、本山はGT500最多勝タイの16勝目を達成。2位にNo.6 ENEOS SUSTINA RC F (大嶋和也 / 国本雄資組) が続き、3位には、終盤の粘りが奏功したNo.17 KEIHIN NSX CONCEPT-GT (塚越広大 / 武藤英紀組) が入った。

Yoshimi

GT500

# B-MAX NDDP GT-Rがタイ2連勝を達成!

## GT300

予選で最速タイムをマークしたのは、今年から本格参戦が始まったマザーシャシーを投入するNo.25 VivaC 86 MC(土屋武士/松井孝允組)。予選アタックでは、まずNo.3 B-MAX NDDP GT-Rの高星明誠が暫定トップに立ったが、終盤にこれを上回ったのが25号車の土屋だった。自身16年ぶりのGT300クラス・ポールポジションを手にしたことになった土屋。そしてチームは決勝でも予選同様にマザーシャシー初の勝利を達成するか、大いに注目が集まった。

だが決勝では安定した速さを武器に、オープニングラップの時点で3号車の星野一樹がトップを奪取。予選3番手のNo.10 GAINER TANAX GT-Rのアンドレ・クートが続き、25号車の土屋は3位へと後退する。2台のGT-Rはハイペースでレースを引っ張り、後続との差を次第に広げていく。ルーティンワークを終えると、3号車、そして10号車はともにルーキー格のドライバーがドライブを担当。それぞれ異なる立場で同じようなプレッシャーを抱えての周回となり、2台の差もほぼ変動せず。結果、単独走行のままレースを終えることになり、3号車が前年に続いての勝利を達成した。また、2位の10号車に続いたのは、タイヤ無交換で表彰台の一角をもぎとったNo.7 Studie BMW Z4(ヨルグ・ミュラー/荒聖治組)だった。





2nd



Yoshimi

Yoshimi

3rd



Yoshimi



Yoshimi

GT300

# RESULT

## GT500決勝結果

1位	No.46	S Road MOLA GT-R	本山 哲 / 柳田真孝	66周
2位	No.6	ENEOS SUSTINA RC F	大嶋和也 / 国本雄貴	66周
3位	No.17	KEIHIN NSX CONCEPT-GT	塚越広大 / 武藤英紀	66周
4位	No.12	カルソニック IMPUL GT-R	安田裕信 / J.P.デ・オリベira	66周
5位	No.1	MOTUL AUTECH GT-R	松田次生 / R・クインタレッリ	66周
6位	No.37	KeePer TOM'S RC F	A・カルダレッリ / 平川 亮	66周
7位	No.39	DENSO KOBELCO SARD RC F	平手晃平 / H・コバライネン	66周
8位	No.36	PETRONAS TOM'S RC F	伊藤大輔 / J・ロシター	66周
9位	No.19	WedsSport ADVAN RC F	脇阪寿一 / 関口雄飛	66周
10位	No.15	ドラゴ モデューロ NSX CONCEPT-GT	小暮卓史 / O・ターベイ	65周
11位	No.64	Epson NSX CONCEPT-GT	中嶋大祐 / B・バケット	53周
12位	No.38	ZENT CERUMO RC F	立川祐路 / 石浦宏明	43周
13位	No.8	ARTA NSX CONCEPT-GT	松浦孝亮 / 野尻智紀	29周
14位	No.100	RAYBRIG NSX CONCEPT-GT	山本尚貴 / 伊沢拓也	4周
15位	No.24	D'station ADVAN GT-R	佐々木 大樹 / L・オールドネス	4周

## GT300決勝結果

1位	No.3	B-MAX NDDP GT-R	星野一樹 / 高星明誠	61周
2位	No.10	GAINER TANAX GT-R	A・クート / 富田竜一郎	61周
3位	No.7	Studie BMW Z4	J・ミュラー / 荒 聖治	61周
4位	No.11	GAINER TANAX SLS	平中克幸 / B・ビルドハイム	61周
5位	No.65	LEON SLS	黒澤治樹 / 蒲生尚弥	61周
6位	No.61	SUBARU BRZ R&D SPORT	井口卓人 / 山内英輝	60周
7位	No.25	VivaC 86 MC	土屋武士 / 松井孝允	60周
8位	No.33	Excellence Porsche	A・インベラトーリ / 山下健太	60周
9位	No.31	TOYOTA PRIUS apr GT	嵯峨宏紀 / 中山雄一	60周
10位	No.55	ARTA CR-Z GT	高木真一 / 小林崇志	60周
11位	No.2	シンティアム・アップル・ロータス	高橋一穂 / 加藤寛規	60周
12位	No.28	REITER GALLARDO	C・アサワヘム / T・エンゲ	59周
13位	No.0	グッドスマイル 初音ミク SLS	谷口信輝 / 片岡龍也	59周
14位	No.50	P.MU SLS	加納政樹 / N.I・バユンク	59周
15位	No.22	グリーンテック SLS AMG GT3	和田 久 / 城内政樹	59周
16位	No.86	Racing Tech Audi R8	細川慎弥 / 加藤正将	59周
17位	No.88	マネバランボルギーニ GT3	織戸 学 / 佐藤公哉	59周
18位	No.77	ケースフロンティア Direction 458	横溝直輝 / 峰尾恭輔	59周
19位	No.21	Audi R8 LMS ultra	R・ライアン / 藤井誠輔	57周
	No.60	SYNTIUM LMcorsa RC F GT3	飯田 章 / 吉本大樹	25周
	No.87	クリスタルクロコ ランボルギーニ GT3	青木孝行 / 山西康司	22周
	No.18	UPGARAGE BANDOH	中山友貴 / 井出有治	15周
	No.30	NetMove GT-R	小泉洋史 / 岩崎祐貴	14周



Yoshimi



# POLE POSITION

## No.38 ZENT CERUMO RC F

Text: Motoko Shimamura Photo: Yukio Yoshimi

### ベテラン立川裕路は今季初のポール!

灼熱の太陽が照りつける中、Q2のラストアタックに向った立川祐路 (No.38 ZENT CERUMO RC F) 走行中、トップタイムをマークしたという手応えは少なかったというが、結果は最速ラップに。2位とはわずか0.008秒という小差ながら、ベテラン立川は今シーズン初となるポールポジションを手にした。その一方で自身が持つGT500クラスにおける通算最多ポールポジション獲得数を「20」へと更新している。

